

## 中国 赤ブドウの輸出実績が悪化し品種更新の必要性

[FreshPlaza 2024年11月5日](#)

### 一部のニッチな果実は輸出市場で人気

中国産ブドウの輸出シーズンは終わりに近づいており、依然として赤ブドウが主な輸出品種となっている。

ブドウの輸出に豊富な経験を持つ陝西和沃輸出入有限公司のカイル・ツェン氏は、「今年、中国の一部の主要赤ブドウ産地では、生産量の減少、市場需要の減退、及び輸出量と輸出単価の両方の低下を経験した」と述べている。同氏が、今シーズンのブドウの輸出実績についての考察を提供する。(以下「」は同氏の話)

「雲南省、甘粛省、新疆ウイグル自治区など、一部の主要な赤ブドウ産地では収量が減少し、全般的な品質は前の年ほどではなかった。海外への販売も減少した。これは、品質が期待に届いていないことや、市場の低迷によりバイヤーを十分に惹きつけられなかったことが一因である。さらに、赤ブドウ品種は長年にわたって輸出されており、消費者の関心が薄れている。近年、ブドウの輸出量は次第に減少している。品種を更新することで、輸出を後押しできるかも知れない。」

「出荷量の減少にもかかわらず、価格は上昇していない。それどころか、輸出価格は下落し、近年に比べて約15~20%低くなっている。国内市場がブドウの主な消費地であるが、昨年の後半以降はこれも低迷している。販売の低迷は在庫の滞留につながっており、ブドウの品質に影響を与えた。」

同社の輸出先市場は、インド、バングラデシュ、東南アジア等である。「中国の赤ブドウは、収穫時期と品種の点でこれらの市場を補完するため、有利性がある。しかし、供給業者が増え、品種の更新が限られることで、競争力は低下している。弊社は、輸出向け品種を多様化し、これらの市場により適したブドウの探求に取り組んでいる。」

輸出市場の変化について、同氏は、過去2年間で東南アジアの購買力が低下し、低価格な果実が好まれていると指摘した。インドとバングラデシュの市場は比較的堅調さを維持しているものの、今年のバングラデシュの景気後退は輸入需要に影響を与えた。

「弊社の戦略の一つは、カキやスモモなど、高品質でニッチな果実を中国から輸出することである。これらの果実は消費者に目新しさを感じさせ、その輸出量は赤ブドウのような大量に輸出される果実の減少をほぼ補っている。」

同社の輸出品目は、ブドウ、柑橘類、スモモ、キウイ、カキ等であり、主な市場はインド、バングラデシュ、東南アジア、中東等である。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)